万松寺 はぐくび通信
第2044号 2021

大切な人の旅立ちの儀式

昨今、葬送の儀式は簡略化の一途をたどり、通夜、葬儀などを行わない「直葬」や一日で行う「一日葬」を選ぶ方が増えているそうです。これは、社会とのつながりの希薄化に加え、これらの儀式が何のために、誰のために必要なのかということが伝わっていないためだと思います。

今回「葬儀」についてお話し、これらの儀式を少しでもご理解頂ければ幸いです。

なぜ葬儀をするのか

人は亡くなると、霊となりこの世を彷徨います。葬儀は、その霊をあの世に送り出すための宗教的な儀式です。また世襲制度の時代は、後継者が誰かを伝えるための儀式でもありました。

仏教における葬儀とは、故人がお釈迦様の弟子になるための儀式と、この世からあの世に送られる儀式の2部構成になっています。

葬儀の流れ

※曹洞宗の場合

【剃髪・受戒】

髪の毛を剃り、お釈迦様にやってはいけない事を守るという約束をして弟子となります。その証としてもらうのが、「戒名」です。「戒名」は受戒を受ければ生前にもらうこともできます。

【引導法語】

導師が「法語」という昔ながらの文面で、故人の霊に対して亡くなったことを伝え、お釈迦様のもとへ導きます。

仏教では、僧侶による葬儀を終えた後に、遺族や参列者が焼香をして故人にお別れを告げます。これを「告別式」といいます。告別式を行うことで、故人の霊はこの世に彷徨い迷う事なく、納得してあの世に行くことができるとされています。

葬儀は誰のためのものか

「死」は必ず訪れるとわかっていても、受け入れることはなかなか難しいものです。大切な人との別れが、辛く悲しいことなのは、故人だけでなく遺された人にとっても同じことが言えます。

ですから葬儀は、故人と遺族が互いに礼を尽くし、前を向いて過ごすことができるようにするために必要な儀式なのです。

長い時間をかけて行われる葬送の儀式やその後の法要などには、それぞれ意義があります。いずれの儀式も故人を偲ぶというだけでなく、遺された人が集い、絆を深めるという意義もあるのです。

葬儀に関する悩みや疑問を解決する
～まんまるなお葬式～
故人と遺族のご縁をつなぐ
お寺ならではのお葬式
まんまるなクラブ会員募集 入会金2,500円(税込)
お寺の費用も全て含んで
通常価格 79万円(税込)
通常会員価格 40万円(税込)
キャンペーン価格 30万円(税込)
期間：2021年12月末日まで
0120-157-942（イコーナ クヨーニ）
株式会社 万松寺セレモニー
〒460-0011
名古屋市中区大須3-30-40
万松寺ビル北館3階
万松寺セレモニーのWEBサイトもご覧ください。

住職の小噺

愛猫の旅立ちと遺した功徳

皆様の家族に動物はいらっしゃるでしょうか？私には19年連れ添った「ホワ」という愛猫がいました。しかし先日、仏様のところへ旅立ちました。今回はホワから私が教えられたことをお話します。

私事にはなりますが、ご一読いただければ幸いです。

■「ホワ」の存在

ホワはひたすら忍耐強く、私をはじめ多くの人を癒してくれました。いつも心温かくスマートな立ち振る舞いが印象的で、よほど嫌いな相手でない限り威嚇もしませんでした。常に他を受け止め、それに反発することなく愛想を振りまく様は、まるでお地蔵様のような猫でした。

■最期のお別れ

この夏、ホワとのお別れの時が来ました。私にとって大切な家族ですから、通夜、葬儀、回忌法要、姉妹猫の「シマ」の13回忌法要を白龍ホールで営みました。50人以上ものご参列の皆様を見たとき、ホワたちはこんなにも多くの方に愛され癒し続けてきたのだと実感し、大変感慨深いものがありました。動物はもちろん、人間の法要でも、コロナ禍のなかで、この人数は稀なことでしょう。

■師からの教え

ホワの「他を受け止めること」を積み重ねた一生は、私から見ると『人間が真似をできるものならしてみろ』と言わんばかりの行動に見えました。動物の純粋さに、我々人間はどれだけ劣るのでしょう。

ホワはありのままを享受する神業の収得者だと思います。私はそんなホワを師と仰ぎ、真似は出来なくとも、その姿勢から学び、近づこうと思っていました。

人も動物もさらには物であっても、失って気づかされることが多いものです。最愛の猫であり、師であったホワを亡くして改めて感じました。

今回ホワのことを記すことは、遺された者が旅立った者の人生を振り返り、そして自分は何を得たかを想うという一つの供養のカタチとなると私は思っています。

合掌

万松寺住職　大藤　元裕

万松寺日記

✤秋彼岸合同法要

■9月24日（金）
25日（土）

彼岸（浄土）と此岸（現世）が近くなるとされる彼岸の時期に、追善供養を営みました。

✤秋期不動明王大祭

■9月28日（火）

身代不動尊のご真前にて災難消除、病気平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈祷を行いました。

✤家族葬ホール「きちょう」オープン

10月中旬に万松寺の家族葬ホール「きちょう」がオープンしました。また「まんまるなお葬式」として、お寺の費用もすべて含んだ葬儀プランを始めました。故人を偲び、遺族が集い、心を込めて手厚く送り出すために、一つひとつの儀礼を大切にしていきます。

✤絆画展

■10月23日（土）
～11月5日（金）

大村順さんの描く「絆画（きずなえ）」の展示会が開催されました。絆画とは、亡くなられた方が生きていたら迎えるはずだった今を、故人の「現在のお顔」とご遺族の絆を描き、果たしたかった夢や願いを叶える絵画作品です。

作品には、ご家族のエピソードが添えられており、来場者の中には、作品の前で立ち止まり、涙を流される方もいらっしゃいました。

会期中は作者の大村さんも在廊され、ご来場の方々と絆画について思いを語られました。

僧侶が教える 仏教の豆知識

【縁起】

一般的に「縁起」というと「○○だから縁起が良い」や「縁起でもない」などといった吉凶やその前兆を表すと思われる方が多いと思います。

しかしもともと「縁起」という言葉は仏教において真理を表す「因縁生起（いんねんせいき）」という言葉を略したものとされています。

今回は、仏教における「縁起」についてお話しします。

■仏教における「縁起」

この世のあらゆるものや現象、私たちの心でさえ「因縁」という関係性によって形作られているという考え方のことです。

〝因〟とは直接的な原因、〝縁〟とは間接的な原因を指します。そして、物事が起きる原因のうち、〝縁〟がより重要だと考えることが「縁起」の根幹的な意味となります。

例えば、何かの競技で優勝した選手がいたとして、優勝できた原因を考えてみましょう。

その選手がその中で一番上手かったのだと、直接的に考えるのが一般的だと思います。それが〝因〟です。しかし、他の選手の体調が悪かった、他の選手が油断していた、本人のプライベートが充実していた、観客の応援によって燃えていたなど、本人の能力以外に様々な原因があるかもしれません。それが〝縁〟です。

このように、物事は様々な原因が「因縁」という関係性によって、直接時、間接的に積み重なって起こっています。

つまり、間接的な原因である〝縁〟が起こらなければ物事は成立しないということになります。

■〝縁〟を呼び起こす

さて、今年も残すところあと僅かとなりました。年始になれば様々な場所が多くの人で賑わい、祝賀ムードに包まれます。万松寺にも初詣に多くの参拝者がお越しになり、来たる年の良い運勢を祈願される方が多くいらっしゃいます。

しかし、年が変わったからといって何かが物理的にリセットされるわけではありませんし、より良い1年になるという保証はどこにもありません。やはり、一人ひとりがより良い明日となるように、今をより良く生きる必要があります。

先ほど〝縁〟が重要とお話ししましたが、より良い明日がくるように自分自身の考え方や行いといった直接的な原因である〝因〟を変えることも「縁起」につながります。

ただ、一概に自分の考え方を変えようとしても難しいものです。そんな時は、坐禅や写経、写仏などを行い自分自身と静かに向き合う時間をつくってみてはいかがでしょうか？

また、ご祈祷を受けてみるのもいいかもしれません。ご祈祷には、無病息災、交通安全、合格祈願、厄払いなどいろいろな種類があります。その時、ご祈祷に用いられるお経や方法も色々あります。もちろん、ご祈祷をしたからといって全ての願いが叶うというわけではありませんが、自分自身が節目かなと感じたときに〝因〟を見つめ、〝縁〟を呼び起こす「きっかけ」となることでしょう。

万松寺では、普段から行っているご祈祷の他、正月や節分、不動大祭などの行事で行うご祈祷があります。この行事で行うご祈祷の際は、大般若経という経典を用います。これは、西遊記で有名な三蔵法師が16年間の旅でインドから持ち帰り、約4年の歳月をかけて翻訳した、約500万字、全600巻という仏教経典の中でも最大規模の経典です。そのほかにも護摩木を用いた護摩祈祷も行っています。

新型コロナウイルスという〝縁〟は、私たちの生活を大きく変化させました。おそらくこの〝縁〟はしばらく続くことでしょう。そのようなときこそ、自分の中に眠っている〝良縁〟を呼び起こし、明るい未来に向けて一歩ずつ進んでいきたいものです。

初詣大般若会

正月元日（土）2日（日）
10時～16時
受付時間：9時半～15時半
場所：不動堂・稲荷堂
受付：本堂1階

大般若　一万円
大般若札・破魔矢（大）・身代わり餅・暦
祈　祷　五千円
御札・破魔矢・身代わり餅・暦
祈　願　二千円
御札・干支絵馬・暦

初稲荷大祭

1月4日（火）
11時～14時
受付時間：11時～13時半
場所：稲荷堂
受付：総合受処

大般若　一万円
大般若札・破魔矢（大）・身代わり餅・暦
祈　祷　五千円
御札・破魔矢・身代わり餅・暦

ご祈祷後、粗食を召し上がっていただきます。
※状況により、お持ち帰りいただく場合がございます。

御供物　御供え餅（献餅）三千円/一升　大ローソク　千円　中ローソク　五百円

当日のご来寺が難しい場合はご不参としてご祈祷を行い、御札・御供物などは送らせていただきます。お申込み時にその旨をお伝えください。

これからの行事

12/8（水） 成道会

お釈迦様がお悟りを開かれた日を祝し、報恩感謝の法要を営みます。

12/31（金） 除夜法会

新たな年も良い氣に恵まれるよう、除夜の鐘をついていただきます。

1/1（土祝）2（日） 初詣大般若会

身代不動明王、白雪稲荷のご真前にて、大渦のない一年を祈祷する大般若会を行います。

1/2（日）3（月） 正月合同法要

墓地や納骨堂に眠るご先祖様や大切な方に、新年のご挨拶を兼ね追善供養を営みます。

1/4（火） 初稲荷大祭

白雪稲荷のご真前にて、仕事始めの開運祈祷を行います。

1/8（土） 昇龍焚き上げ

正月飾りや古い御札、お守りを読経と浄火によりお焚き上げし、併せて凶返しの護摩焚きを行います。

1/28（金） 初不動大祭

身代不動明王のご真前にて、開運護摩炊きを行います。

※行事・イベントは変更となる場合があります。詳しくはホームページをご確認いただくか電話でお問い合わせください。

※ご来寺いただく際は感染症予防対策にご協力をお願いします。

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは祈祷受処または 052-262-0735 にて承ります。（年中無休）

除夜法会

年忘れ 除厄・家内安全

12月31日（金）22時～

受付 白龍館2F 白龍ホールロビー

◆一口　一万円
おせち料理・破魔矢・暦つき
※お持ち帰りのおせち料理は和洋折衷のものをご用意いたします。

◆一口　五千円
干支絵馬・暦つき

※写真はイメージです

お申込み方法〉祈祷受処またはお電話にて承ります。　０５２－２６２－０７３５